

ライフケアガーデン湘南 特定入居

症 例 概 要 利用者氏名：T.T様（80代後半 女性 要介護1）
利用期間：令和2年4月～令和2年12月現在
主疾患：アルツハイマー型認知症、SLEに伴う血小板減少、陳旧性肺結核、
骨粗鬆症（L4圧迫骨折）

経過：80代半頃、アルツハイマー型認知症が発症。夫と二人暮らし。物の名前が出て来ない、おかずをみそ汁に入れる、服の失認失行等の認知症が進行。在宅生活が困難となり、80代後半でライフケアガーデン湘南に入居となった。しばらく帰宅願望やケアに対する拒否、他の入居者さんとのトラブルがみられたが、ユマニチュード強化対象者にリストアップして関わりを続ける事で症状が落ち着き安心して生活できる場面が増加した。

内 容

ご入居直後から衣類を紙袋やバックに詰め「帰ります」と険しい表情で出口を探して歩き回ることや、他の入居者さんの部屋に入ろうとする、といったBPSDが多数見受けられました。

また、他の入居者さんの施錠された扉を開けようとされるなど周囲を巻き込んだトラブルになる事もありました。

心地よく安心して生活して頂けるよう、認知症委員会と連携しユマニチュード強化対象者としてリストアップ。帰宅願望などのBPSDが出現するタイミングを観察。一見すると健常な方の為、自立や軽度の認知症の方から「変わっている人」と見なされている場面もあり、食事の席では厳しい非難や注意をされる事もありました。そのような緊張する場面の後に、周辺症状が出る事が多いと分かり早急に食席の変更を検討しましたが、環境の変化による混乱を避けるために、おやつから食席を変更してみるなど時間をかけて段階的に変更をしました。

最終的に職員が付き添い易い介助席に変更。ご本人にも混乱はなし。ユマニチュードの根幹である「話す時間」「触れる時間」「見る時間」を皆で意識的に増やし「あなたの事を大切に思っています」と心から寄り添うように気持ちの触れ合える時間を意識して増やしました。

その他のご様子として夕方や夕食後には帰宅願望による歩き回りがありました。その歩き回られる約1時間でフロアのテーブル拭きや掃除などの家事をお願いし、自信をもっていただけるよう工夫して関わりました。

家事をされる姿はとても生き生きとしていて、効果を感じる手ごたえがありました。その後も意識的にユ

マニチュードを続ける事で、穏やかで楽しい時間が増えていき、ご入居直後に比べて表情に大きな変化が見られています。

不安気だったご家族も、今では穏やかなご本人を見て安心して下さっていて、旦那様も将来ご入居をご検討いただいています。

今後もチームでユマニチュードを続け、入居者さんにとってより良い環境が提供できる様に務めていきます。